

「TNM & TOPPAN ミュージアムシアター」 東洋館リニューアルオープン以来の来場者 10 万人

東京国立博物館（所在地：東京都台東区、館長：銭谷眞美、以下 東博）と凸版印刷株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：金子眞吾、以下 凸版印刷）が 2013 年 1 月に、東京国立博物館・東洋館地下 1 階にリニューアルオープンした「TNM & TOPPAN ミュージアムシアター」（以下 ミュージアムシアター）は、2016 年 10 月 21 日（金）に 10 万人目のお客様をお迎えしました。

10 万人目をお迎えした 16 時の上演回では、東博館長・銭谷眞美、凸版印刷文化事業推進本部長・中村直靖からの挨拶に加え、ミュージアムシアター演目として最も人気が高く、また今年国宝指定が決定した「洛中洛外図屏風（舟木本）」（東博所蔵）の四分の一サイズの複製リーフレット（10 万人記念シール付）を、会場のお客様全員に記念品として贈呈しました。



●10 万人目にご来場の迫田さんへの記念品贈呈の様子

東京都府中市よりお越しの迫田（さこた）さんは、「資料館の頃からシアターに来ているのですが、私が 10 万人目ということで驚きました。シアターでは作品を細かく見られて勉強になります。これからの作品も楽しみです。」とお話くださいました。

東博と凸版印刷は、2007 年より文化財の新しい公開手法に関する共同プロジェクトを推進し、その活動の一環として、東博の収蔵品を中心とした文化財をテーマにした VR 作品を共同製作し、これまでに延べ 50 タイトルを上演してきました（リニューアルオープン以降は 24 タイトル）。開館以来、専属ナビゲータによるライブ解説で、VR ならではの視点から、新たな文化財鑑賞体験ができる施設として評価をいただき、多くのお客様にお越しいただくことができました。

ミュージアムシアターでは今後も、より多くのお客様に、新しい文化財との出会いを楽しんでいただけるよう、様々な活動を行ってまいります。

■東京国立博物館と凸版印刷の共同製作コンテンツをはじめとする延べ 50 タイトルの VR 作品を上演



●上演 VR 作品の一部抜粋

『三蔵法師の十一面観音』、『DOGU 縄文人が込めたメッセージ』、『伊能忠敬の日本図』、『国宝 檜図屏風と狩野永徳』、『東博のミイラ デジタル解剖室へようこそ』、『日本工芸の名宝 色絵月梅図茶壺・八橋蒔絵螺鈿硯箱』、『洛中洛外図屏風 舟木本』

監修：東京国立博物館 制作：凸版印刷株式会社

■「TNM & TOPPAN ミュージアムシアター」について



「TNM & TOPPAN ミュージアムシアター」は、VR による文化財の新しい鑑賞方法を体験できる施設です。「バーチャルリアリティで時空を超える」をコンセプトに、東京国立博物館の収蔵品を中心とする文化財デジタルアーカイブを VR 技術で可視化。専属のナビゲータによるライブ上演で、あたかもコンピュータが生成する三次元空間の中にいるかのような感覚で文化財を鑑賞できます。文化財の往時の姿の再現や肉眼では鑑賞することが難しい細かなディテールの拡大など、デジタルならではの文化財との新たな出会いと楽しみ方を提供する空間です。

■報道に関するお問い合わせ先

東京国立博物館 広報室 TEL：03-3822-1111 FAX：03-3822-2081

凸版印刷株式会社 文化事業推進本部 パブリシティ担当 TEL：03-5840-4899 FAX：03-5840-1910